４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.598-599
エコプロダクツ展に出展しました

【新年のご挨拶】

昨年は、５月に新型コロナが２類から５類に引き下げられ、コロナ禍以前のような日常がもどりつつある中で、各地での台風や大雨、土砂災害に加え、夏から秋にかけての異常な高温、秋口の気温低下等、四季の変化が失われたかのような状況に、今まで以上に環境破壊を意識せざるを得ない年だったのではないでしょうか。

昨年の当会の活動については、学芸大附属中学生の積極的参加により年間を通して充実した定例活動をすることが出来たと思います。また、小金井市でのワークショップ、地元小学生中心の体験学校といった各種イベント等の実施を通じて、参加者に貴重な体験の場を提供するとともに、活動の輪を広げることも出来たと言え、ようやくコロナの影響を意識することなく

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

活動出来る環境が戻ってきたことを実感できる一年でした。
　いずれにしても、事故なく一年を終えられたことにお礼を申し上げます。ありがとうございました。
ところで、当会の”緑のダム”というネーミング、”森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない”というスローガンは、限られた地域・メンバー・時間という条件下での活動ではあるものの、地道な活動を継続することを通じて、森林の維持・環境保全に少しでも貢献したいという気持ちが込められていると思っています。
　ボランティア活動は高齢化、人口の減少、定年延長による就労形態の変化等から担い手の減少といった大きな課題を抱えています。幸いなことに、当会は中学生メンバーの入れ替わりはありますが、若い学生の力に支えられています。
　若い方々が、活動を通じ自然と触れ合い、自然の大切さを実感し、さらには地域との触れ合いを通じて色々な経験を積み重ねながら活動が継続できるというのは素晴らしいことだと思います。
石川・能登の地震、日航機と海上保安庁機の衝突と衝撃的な出来事が立て続けに起こり、明日は何がおこるかわからないことを、改めて実感させる年明けとなりました。事故なく、楽しい活動を継続できるよう、一層の注意を払いながら協力し頑張って行きたいと思っております。本年もよろしくお願いいたします。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】知足の森

　今月の活動では午前は間伐、午後は果樹園の整備をした。私たちのグループが間伐する木は、横に倒そうと思っていたが、受け口が少し下に向いてしまったことで、少し下向きに倒れ、引っかかってしまった。改めて受け口の重要さを実感した。しかし、ツルの左右を少し切ることで木がさらに不安定になり、人力で倒すことができた。そして、今回私たちのグループでは、使うことがなかったが、フェアリングレバーという新しい機材を知った。テコの原理を使って、倒すのを助けたり、挟んで木を回転させたりすることに使えるらしい。夏に昆虫調査で仕掛けたトラップが5つあるが、そのうち1つだけ昆虫が10匹ほど入っていた。1～2mの間隔で置いているのに、1つだけに入っている理由が気になった。
　果樹園の整備は長さが様々な剪定バサミを使って、1.5～1.8mほどの木を剪定した。各枝分かれしているところで長いのを切っていくことで、同じぐらいの高さに揃えることができた。そして、最後に柚子を取った。柚子の枝にトゲがついていることを初めて知った。森の活動は参加するたびに新たな発見があり、今回も充実した1日を過ごせた。

岡野　芽生　（GTE LAB 中学２年女子）

【活動報告】地元中学校で授業を行いました

　毎年恒例となっている、活動フィールドがある緑区にある北相中学校での総合の授業を行いました。２コマ続きで、森のボードゲームと、森づくりの面白さについて講義をしました。生徒の感想からもすぐ近くの森にこんなことがあるなんて、など新鮮さを感じたというものが多くみられました。今後の活動も広報しながら参加者が増えることを期待しています。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「ブナ(*Fagus crenata*)その2 ブナ林の更新（代替わり）」

図1　沢山のブナのメバエ
19930628　輝葉峡水上

図2　食害されたメバエ

19930628　輝葉峡水上

図3　霜柱

20221225　昭和記念公園西立川

図4　シモバシラ

20221225　昭和記念公園西立川

ブナは日本の森林植生を代表する樹木です。第二次世界大戦で大被害を受けた日本各地の家屋を始めとする建築物の再建のために多量の木材が必要になり、輸入するための外貨のない日本では自力で復興用の建材を作り出さなければならなくなりました。そのために生産力の低い天然林が材木生産効率のいい針葉樹林に林種転換されました。天然林ではブナが冷温帯地域で広く純林を作っていました。純林とはそこに存在する樹木の50%以上を占める樹種がある林を指しますが、殆どの冷温帯林ではブナが純林状態で優占するので、冷温帯林のある範囲をブナ帯という言うこともあります。それは雪の多い地域で顕著でした。もともとあった自然植生を伐採したり燃やしたりしてその跡地に植樹して新たに林を作れば、できた林は人工林です。広大な面積があったブナ林も人工林に代えられましたが奥地で辿り着きにくいとか地形が厳しいとか雪の量が多いとかいった場所が残されました。それらの多くが現在みられる天然林です。その林を観察することで、天然林の生態を垣間（かいま）見られます。

ブナ林が代々続いて行くためには子孫の確保が大事です。ブナは6、7年置きに沢山の種子を生らせ、この種子が沢山生る年を豊作年といいます。足の踏み場がない程の種子が地面を覆い、沢山のメバエが出てきます（図1）。メバエは沢山出るんですがそれは色んな被害を受けてほとんどが育ちません。食べられてしまったメバエがよく観察されますが犯人は解りません、齧歯目動物（ネズミやリスの仲間）か鳥と思います（図2）。それでも残るメバエは稚樹となり幼樹となって次の世代を担うことになります。旺盛なダケカンバの下層にこれも旺盛なブナ幼樹のある林がよく見られます（図3）。でもブナの多い豪多雪地帯では、冬になると小さい樹木は積雪に押しつぶされて春を迎えることになり中々大きくなれません。押し付けられて曲がっても曲がった幹から不定根を発生して伸びる機会を覗います（図4）。このような性質を持つので雪国にブナは繁栄できました。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】エコプロダクツ展に出展しました

今回初めてエコプロに参加して、私は、サバニで使うエークを出展しました。サバニとは、南西諸島で古くから使われている漁船です。推進方法は「エーク」と呼ばれる櫂、四角い帆、エンジンの3種類ですが、近年は、エンジンが主流になりっています。そこで沖縄の、「伝統船サバニを作るプロジェクト」に依頼されてから、何回も試作を重ね、細かな調整をくわえました。初めて、Shopbotを使って作りましたが、

なれないことだらけで難しかったけれど、自分で作ったデータが形にすることができてよかったです。会場はとても広く、いろいろな団体も出展していて、参考になることも多かったです。

川又　慶子（東京都立武蔵野北高等学校２年）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia